

# 資源循環の取り組み

## ● 廃棄物の減量とリサイクル

列車や駅から日々排出される廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに生活サービス事業における飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物など、JR東日本グループから排出される廃棄物は多種多様です。鉄道事業や生活サービス事業などから排出される多様な廃棄物を削減するために、発生の抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再資源化(リサイクル)を進めているほか、特にリサイクルについては廃棄物の種類ごとにリサイクルの達成目標を定めて取り組みを進めています。

## ● 駅・列車からのゴミ回収と再生

駅や列車から排出されたゴミは2008年度が4.2万トンで、これは10.5万人が1年間に一般家庭で排出するゴミに相当します。その中には資源ゴミも含まれているため、再び資源として利用できるよう、駅への分別ゴミ箱の設置や、首都圏においては、収集後の分別を徹底して行うリサイクルセンターを設けています。2008年6月には目標を引き上げ取り組みを進めており、2008年度のリサイクル率は70%となりました。なお、2007年度より、サーマルリサイクルを考慮しています。

## ● 総合車両センターなどでのリサイクル

車両の製造時やメンテナンス時に発生する廃棄物のリサイクルにも取り組んでいます。新津車両製作所では、車両設計時からライフサイクル全体を考慮するなどの対応を進めているほか、各地の総合車両センターでは、廃棄物を20～30種類に分別を徹底し、廃棄物の減量とリサイクルを図っています。2005年度からは、廃車車両のうち外部に売却したうえで解体される車両についても把握の対象として取り組みを強化しています。



長野総合車両センター  
廃車輪をブレーキディスクの部品にリサイクルしています

## ● 設備工事における廃棄物の削減

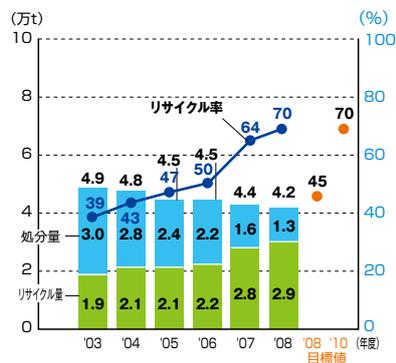
設備工事における廃棄物の削減のため、建設副産物の適正処理や廃棄物を抑制する設計・工法を規定するなどの取り組みを進めています。

駅や構造物の建設やメンテナンスによる設備工事では、外部からの受託工事※による8.4万トンを含め、2008年度には39.6万トンの廃棄物が発生しました。

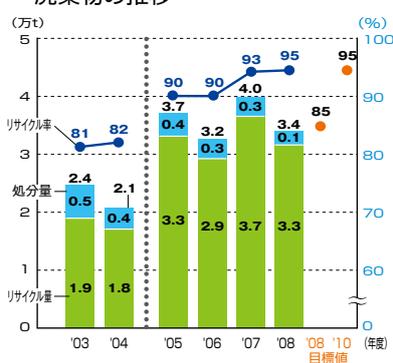
※受託工事 列車の安全運行の確保などのために、JR東日本が自治体などから委託を受けて行う社外施設の工事。

—資源循環の取り組み—

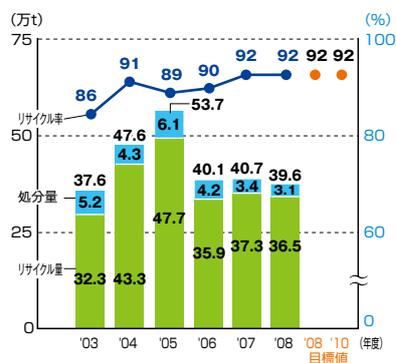
■ 駅・列車からのゴミの推移



■ 総合車両センターなどからの廃棄物の推移



■ 設備工事からの廃棄物の推移



● オフィスにおける廃棄物削減の取り組み

本社・支社などの各オフィスでは、ペーパーレス化による廃棄物の削減や、ゴミ箱の工夫などによりリサイクルの取り組みを行っています。2008年度には、廃棄物2,658トンのうち、2,209トン(83%)をリサイクルしました。



● 生活サービス分野における食品ゴミリサイクルの取り組み

エキナカでの飲食店舗展開や駅弁の製造販売を行っている株日本レストランエンタプライズにおいて、店舗・工場から排出される食品ゴミを自社農園で肥料として利用し、そこで収穫した農作物を店舗・工場に食材として利用するという食品リサイクルに取り組んでいます。

また、多くのエキナカの店舗や駅ビル・ホテルにおいて、食品ゴミのリサイクルおよび排出量の軽減に努めており、食品リサイクル法の基準の達成に取り組んでいます。

● 水資源の有効活用

JR東日本では、年間1,187万m<sup>3</sup>の水資源を使用しています。このため、中水<sup>\*</sup>の利用を積極的に進めており、雨水や手洗い水をトイレの洗浄水として再利用しています。本社ビルでは2008年度に使用した4.6万m<sup>3</sup>の水のうち、2.1万m<sup>3</sup>を再利用しました。

<sup>\*</sup>中水 上水と下水の中間に位置づけられる水の用途。水をリサイクルして限定した用途に利用するもの。

## -資源循環の取り組み-

## ●乗車券類のリデュースとリサイクル

回収された使用済みのきっぷは製紙工場へ送り、きっぷの裏面の鉄粉を分離してトイレトペーパーや段ボールにリサイクルしています。2008年度には回収量464トンすべてをリサイクルしました。また回収した磁気定期券についても、固形燃料としてリサイクルしています。



駅で集められる使用済み切符は、トイレトペーパーとして首都圏の主要駅に戻ります

## ●グリーン調達推進

JR東日本では、事業活動と環境保護の両立に向けエコロジー推進活動を展開していますが、その一環として環境負荷ができるだけ小さい製品を優先的に調達することを進めており、1999年に「JR東日本グリーン調達ガイドライン」を制定しました。オフィスで使用する事務用品においては、56%の品目がグリーン購入対象物品となっているほか、資材調達の取引先を選定するにあたっては、環境およびCSRへの取り組み状況を調査把握し、これを選定指標のひとつとしています。

## ●ゴミの社内循環活用

駅で発生するゴミについて、社内での循環利用を進めています。

きっぷから再生された紙は、トイレトペーパーとして首都圏の主な駅のトイレで再利用しているほか、駅や列車の分別ゴミ箱で回収した雑誌はコート紙に再生し、新幹線車内に設置している情報誌「トランヴェール」の用紙として使用しています。さらに新聞紙はリサイクルし、社内のコピー用紙として使用しています。



新幹線車内に設置している情報誌「トランヴェール」は、駅や列車で捨てられた雑誌などをリサイクル